令和５年度第２回北海道立近代美術館協議会　議事録

１　日　時　令和６年３月６日（水）13:30～15:30

２　会　場　北海道立近代美術館　３階　会議室　（Web 会議システム Zoom 併用）

３　出席者　【委　員】東尚典、大石朋生、柿崎三津子、北村清彦（会長）、霜村紀子、千葉徹、
中井令、三澤祥子、三橋純予、吉崎元章（副会長）、吉野光（計 11 名）
（敬称略 50 音順）

【事務局】近代美術館：立川館長、松田副館長、中村学芸副館長、熊澤総務企画部長、
五十嵐学芸部長、土岐学芸統括官、富田総務企画課長

三岸好太郎美術館：櫻井館長、岩上副館長

４　傍聴者　なし

５　議　題

【近代美術館】

⑴ 令和５年度事業の実施状況について（資料１－１）

⑵ 令和６年度事業実施計画（予定）等について（資料１－２）

【三岸好太郎美術館】

⑶ 令和５年度事業の実施状況について（資料２－１）

⑷ 令和６年度事業実施計画（予定）等について（資料２－２）

⑸ 新たな美術館評価制度について（資料３）

⑹ 近代美術館リニューアルに向けた検討状況について（資料４）

６　議　事

館長挨拶の後、会長の進行により議事に入る。

【近代美術館】

⑴ 令和５年度事業の実施状況について

⑵ 令和６年度事業実施計画（予定）等について

ア　事務局から資料１－１、１－２（近代美術館）について説明

イ　質疑・意見

【北村会長】

ポケット学芸員の話は、令和 4 年度第 2 回協議会の時に中井委員から、とても音声ガイドの機械が重たいので、軽く聞ける仕組みがないのかというご提案いただいたと思います。

それが一部実現されているということです。

【中井委員】

ポケット学芸員が導入されたことが非常に嬉しく思いました。早速見てみましたが、まだ、点数が少なく、試験運用という感じで、これからどんどん増えていけばいいと思いました。

北海道内で見た限りで良いと思ったのは、北海道立博物館とサッポロピリカコタンのポケット学芸員が音声もあるし画像もついているし、文字も説明も程よくあって、非常に見やすいと思いました。また、行きたいなと思わせる感じもあり、魅力的な構成になっていると思います。札幌芸術の森の野外美術館、だて歴史文化ミュージアムは非常に充実しているのですが、写真が少ないです。やはり、写真がついていると違うなと思いました。

ポケット学芸員とは別に、音声ガイドは、近代美術館に無料 Wi-Fi があるというのを気づいていない人がいらっしゃると思います。私自身も気がつかずスマートフォンで展示解説を Wi-Fi なしで１時間以上つなげていて、出てしまってから無料 Wi-Fi があることに気づいたので、無料 Wi-Fi があると言うことを知らない方が沢山いらっしゃると思いました。無料 Wi-Fi があることを周知していただけると非常に使いやすくなると思いました。

【北村会長】

ポケット学芸員の活用法もまだまだこれから考えていただきたい。

フリーの Wi-Fi について、オンラインアート教室は、この環境があるからできていると思います。双方向のやりとりもできるようになっているということで、充実すれば、1 校対 1 校だけではなく、近代美術館と複数の学校ともやりとりができるはずなので、多くの方に対応できる。

聾学校に対する字幕の取り組みも非常に素晴らしいことだと思います。

カフェが閉店したというのは残念ですけれども、民間の事業者の参入が難しいことだろうと思います。その中で、３日間限定で行ったのはなんともいじらしい気がします。魅力的な美術館であれば、民間にとっても魅力的な事業になるかもしれないので頑張って欲しいと思います。今年度も来年度も基金を活用して作品を収蔵できるということで、基金の活用は、本体を取り崩してか、それとも運用益で賄えているのでしょうか？

【立川館長】

基本的に５億円あるので、そこから買うのですが、買ったものを買い戻すのが、年間の目安として１千万円の枠がありますので、道立美術館全体で１千万の範囲内で新たな作品を買う。翌年買わないといけないので、そのために予算を１千万円つけるというローテーションになっていて、運用益という考えではなくて、本体を崩すけれども、また本体に補填して、５億円を維持するという仕組みになっています。

【吉崎副会長】

９月からの後半の展覧会のラインナップを見ていくと、Ａ展示室とＢ展示室の関係がすごく面白いと思いました。足立美術館展でしっとりとした伝統的な表現の日本画を展示していて、片方では、革新的な日本画の展示をしているということで、両方見ることによって日本画の多様性や可能性を知って、お互いに深め合うことができたと感じました。１月からの札幌国際芸術祭では、過去の 100 年をたどるということだったのですが、北海道に限れば、北海道の歴史においてアイヌの存在を抜きに語れないところを、AINU ART の方で補完するという形になっており、とてもいい関係だと思いました。札幌国際芸術祭の方でも、揺さぶる絵の方にも道立近代美術館のコレクションが入っていて、コレクション展ではないけれども、コレクションの新しい活用の仕方として興味深かったです。一つ驚いたのが、札幌国際芸術祭の時に、学芸員と巡る深掘りガイドツアーをやっており、その時に見に来たら、すごい数の人が集まっていました。展覧会の構成自体がやや難解なところがあったのですけれども、このツアーに参加して、展示のねらいやコンセプトをとても良く理解できました。お聞きしたかったのが、このガイドツアーになぜこんなに多く人が集まったのか理由を教えていただきたいのと、道立近代美術館では、講演会とか解説に力を入れているというイメージがあ

るのですが、最近の来館者のニーズの変化を感じていましたら、教えてください。

【中村学芸副館長】

札幌国際芸術祭のガイドツアーに関しましては、私たちも正直こんなにお客さんが来るとは予想していませんでした。芸術祭側が広報に相当力を入れていたということ、地下鉄ホームのゲート表示、地下街の柱巻き広告、ＳＮＳのさかんな発信など、芸術祭側の広報の力が非常に大きかったと思っています。紙媒体は多くありませんでしたが、紙媒体が無くても広報の仕方によっては、これだけお客さんに届いているというのは発見でした。また、他の会場では、学芸員のツアーがあまりなかったようですので、珍しかったのかとも思いました。

【五十嵐学芸部長】

私は、AINU ART 展を担当したのですが、AINU ART 展では 6 回のアーティストトークを行い、ＳＩＡＦのＦＲＡＧＩＬＥとの連携トークも行ったのですが、分かった来館者のニーズとしては、雪まつり時期での開催でしたので、海外の方が非常に多くて、AINU ART の映像に関しては、英語のサブタイトルも入れていたのですけれども、解説パネルについては、日本語のみでしたので、それに対して、英語での解説を望む声が多く、今後は、英語の表記も必要であると強く思いました。

【柿崎委員】

私は、アルスを担当しており、常設展示室で解説はなかったのですけれども、アルスで待機していました。ＳＩＡＦの時に、普段と違う方々がいっぱい来ていると感じました。ガイドブックを全館 5 冊集めると別なグッズに取り替えてもらえるということで、全館行かれた方もすごく多かったですし、外国人の方もすごく多くいて、いつもとちょっと変わった美術館でいいなと感じました。新しい発見をしました。

【北村委員】

ＳＩＡＦを初めて冬の時期に行ったという、ある程度狙いが当たったと言うところがあるのでしょうか。全体の総括は私たちのするところではありませんが、近代美術館として、継続して、一定の学ぶべき所や、経験値が積み重なるところがあったと思います。

【霜村委員】

先ほど、カフェを利用しようと思ったら閉じていたのですけれども、６月に閉じられたにも関わらず、すばやくマップは制作され、17 店舗掲載されていました。各お店との協賛なり、協力関係を教えていただきたいです。博物館や美術館のカフェやレストランが撤退される事情は多いと思いますので、このような連携の仕方もあるのかと感じていました。美術館からカフェに行っていただくとか、また、カフェから美術館に来ていただくという繋がりにもなると思いました。また、イベントと連動した徳光珈琲ですとか、魯山人カフェというのも、展覧会の時期だからこそ、味わえる試みとしてとても工夫があると思いました。プロフェッショナルの方以外にも、例えば、ボランティアさんでも事業が展開できるのではないかと思いました。私も以前の職場でボランティアさんとイベントの時に、お飲み物を提供したこともあるので、手作りのものもできる可能性を感じたところです。お店の協賛、協力関係をお聞かせいただければと思います。

【熊澤総務企画部長】

近隣のカフェやレストラン 17 店舗ですけれども、あらかじめ 17 店限定だったわけではなくて、これ以上にお店はあって、マップを作りたいけれども掲載をどうですかというのを聞いた上で、お願いしますと言ってくださったのが、17 店舗になります。その 17 店舗に対して、このような項目を載せたいとか、このような写真でとかのやりとりをさせていただきながら、3 千部作らせていただきまして、出入口に置いたのですけれども、３，４日で無くなってしまいまして、カフェのニーズは高いというのを改めて認識したところです。協賛は、近美を観たら何かというところまでのコラボには至っておりません。

【北村会長】

美術館に来る方達が、１００％作品を見るだけではなくて、美術館に来ること自体を楽しみにしている方もいっぱいいらっしゃるので、カフェとかレストランとかグッズコーナーとかとても重要な役割を果たしております。ＳＩＡＦのように沢山外部からお客さんが来る時などには、そういうニーズも多いのではないかと思います。

【千葉委員】

観光の関係で言いますと、今、開催しているAINU ARTの関係で、非常に注目が高まっておりますし、エンターテイメントでは、映画のゴールデンカムイがヒットしている時でもあるので、来られている方も多いと思います。展示も落ち着いた形で、個人的に非常に良かったと思います。

来年度の事業で、栗谷川さんの展示が行われるということで、この方は北海道の観光ポスターも沢山作られている方で、デザインの上では、北海道の中でもとても有名な方なので、非常に期待しているところでありますし、私どももＰＲさせていただきたいと考えております。私どもの会社でも、栗谷川先生のデザインを使ったポスターを昔、沢山作っていたけれど、実物ではほとんど残っていないので、見られたらと思います。

【三澤委員】

私は、美術館に来る時は大体、海外の人と一緒に来ます。いつも、海外の説明書ありますかと聞いています。色々な展示に説明が書いてあったりすると、翻訳アプリを使って読んでいます。国際芸術祭の時も、日本語は喋れるけど日本語は読めないと言うハーフの人と一緒に来まして、色んなものを楽しめて良かったと言ってくれました。国際芸術祭は写真が撮れるところが沢山あったので、外国の人達は早速インスタであげて、沢山いいねをもらっていて、すごい効果だと思いました。

後は、カフェに行きたくなるのですけれども、残念なことに今閉店していました。かでる２・７ですとか、砂川に障害者の人がやっている、安くておいしいカフェがあちこちにあると思うのですけれども、安くておいしい、そして、障害者の人が生き生きと働けるという取り組みができたらいいなと思いました。

【北村会長】

ポケット学芸員もそうですけど、ツールの開発の速度がすごく速くて、昨日できなかったことが、今日できるようなことがある。外国語の表記も外に発注して、校正して昔は大変だったと思いますが、ポケトークを使うとすぐ字幕が出てくるし、耳の不自由な方用に字幕をつけられるし、外国語に直すのもかつてより難しくないので、ハードルを上げずにできると思います。

【三橋委員】

移動美術館につきましては、休止ということで、オンラインの方で内容が広がっていくのかと思います。例えば、岩見沢校の美術の受験生は、面接などで聞いていますと、道外や道内の色々な所から受けに来てくれるのですが、美術館が近くにないですとか、美術の先生がいないですとか、一人でなんとかがんばって絵を描いてきましたと言うような学生が少しずつ増えてきているところがあって、美術館だけではないと思いますが、北海道の美術に関わる人材を育てることを、本気で取り組んでいかないと危ないというのがあります。観る機会もありますが、若手の人達が作ってもその先がないということが多いので、北海道で美術に関わっていく人材を、子供の時から、生涯教育として取り組んでいく方法を、色々な分野と関連しながらやっていかないとかなり危ないというのが肌感覚であります。大学もそうですし、学校もそうですが、美術館は社会教育施設でもあるというところで、中核となる「文化を保存して伝えていく」ことを、一緒にできたらいいなと大学の方でも考えています。

オンライアート教室を聾学校とやられたということで、私も、アールブリュットの方でワークショップをやっているのですけれども、音声をどうするのかなと思っていたら、先ほどの説明で、字幕化をリアルタイムでスムーズにできたということなので、ノウハウとかを、色々なところに研究や実績の還元という形でしていただくと、それぞれの地域でも色々なことができると思って聞いておりました。

【松田副館長】

移動美術館に関しては、協議会の中でも、是非継続して欲しいなどご意見をいただいており、本庁としても、全道の美術館の無い地域の皆様にどのように美術作品を見せていくかという方向性を含めて、検討するという話を聞いております。今いただいた話、特にオンラインアートのノウハウの提供なども含めて、改めて、本庁に情報提供して、美術館としても一緒に考えてまいります。

【大石委員】

先ほど、三橋先生がおっしゃっていた話が、旭川ではかなり喫緊の課題であり、本当に人材がいなくて、札幌はそうではないだろうと思っていましたが、食堂がなかなか埋まらないですとか、実

情としてあるのだとびっくりしておりました。

私も、魯山人カフェの試みは非常に有効だったと思います。美術館に来られる方々は、親しみやすさであったり、美術館で作品を鑑賞するということをパッケージで考えていると思うので、食であったり、先ほどアンケートで写真は撮れないのだろうかと言われたとありましたが、難しいというのが意外だったりされる方が多いと思います。

例えば、所蔵作品については、作品を撮ってもいいスペース、フォトスポットみたいなものを作るとか、或いは、この作品だけは写真を撮っても良いという表示ができる可能性があるのかないのかというのをお聞きしたかった。

作品を見に来られる方の視点で考えると、作品の半券とかフライヤーとか、作品を見終わった後に取っておけるものは大事だったりするので、写真に撮ってＳＮＳにあげたりですとか、販促効果や広報効果となるので、紙媒体でなくてもＳＮＳの時代ですので、口コミで広がる可能性がありますし、旅行者を取り込んでどんどん美術館全体が盛り上がっていくことが大事だったりする。移動販売車ですとか、あるいは、フォトスポット的なものがあるといいのではないかと思いました。

令和６年度の展覧会の中でネーミングがすごく効いていると思いました。『さいきょうのざいりょう』ですとか、『琳派×アニメ』ですとか、ネーミングで親しみやすさが増しており、学芸員の方がすごく心を尽くしているというところが感じられるので、展覧会の名前から行きたくなるような動機を喚起していくという試みはすごく重要ではないかと思いました。

【中村学芸副館長】

所蔵品につきましては、主に展示室Ａで近美コレクション展として紹介しており、そこでの撮影については、基本全てＯＫにしています。昔は、ほとんどの美術館が撮影禁止でしたけれども、なぜ禁止できるのかを当館内部で検討し直した時に、施設管理権を根拠としてご遠慮いただくということがわかりました。著作権を持っているのは美術館ではありませんので、著作権上問題があるから美術館が撮影を禁止するというのは理屈として成り立たない。あくまでも施設管理権であると考えた時に、撮影禁止までしなくてもよいのではないか、むしろ著作権を大事にしなければいけないことを多くの方に認識してもらいながら、撮影を楽しんでいただくという考え方に転換しました。

現在、当館のコレクションにつきましては、展示している作品は撮影ＯＫということにしております。フォトスポットの考えはありませんでしたので、撮る人の楽しみは、今後考えていく余地があると思います。

【東委員】

私は、小学校の教員なので、先ほど話題になった地方で本物に触れる機会がないというのは、以前から言われている所ですけれども、小学校、中学校の数が減っていて図工や美術を専門に指導できる、専門の免許をとって現場に入っている先生がすごく減っている現状があるということは、この立場で、非常に実感しています。私のいる研究団体の北海道造形連盟は、札幌だけではなくて、全道の方々と関わる機会があるのですが、図工、美術については、現場に入ってから、学ぶ機会がなかなかないと聞きます。子供達と一緒に学べる機会が持てないということで、悩みを抱えている先生方が沢山おります。

オンラインアート教室は、令和５年度は７校と言うことで、そちらに行かなくてもオンラインで繋がるという取り組みをされていて、双方向の取り組みとして鑑賞の授業を行っていただいているということは非常にありがたいと思いますし、１校限定ではなくて、一度に複数校でやれば対象校が広がるのではないかというアイデアをいただいていました。是非、機会を増やしていただくのと同時に、こういうことがやれるのか、こういうことをやってみたいけどできるのかという風にして、踏み出せないような先生がいると思うので、そちらに対するアプローチの仕方を工夫していただきたいと思います。もちろん、先生方ご自身で見つけて、申し込まれている学校が多いと思いますけれども。７校の実績ですが、実際は沢山の学校が希望されているのではないかと思いますが、どれくらいの希望があったのか、その中で、小中学校の希望がどれくらいあったのか分かれば教えていただきたい。

ウィズ・キッズの取り組みでは、来年度新しい展覧会を２回行うということで、相談いただきました。私も、授業から離れていて時間がたっていて、要望に応えられるような回答ができたか心配なところもあるのですが、可能であれば、企画の段階から現場に立っている先生方と話をさせていただくような機会を設けていただけるとありがたいと思いますし、展覧会が行われる前に、私の所

属している団体で会議もありますので、その中でＰＲの機会を作っていただいたら、是非見に行きたいという子供達が増えていくと思いますので、可能であれば連絡をとらせていただきたい。

【中村副館長】

オンラインアート教室につきましては、近美７校のうち、中学校が１校、高校が６校になります。他の道立美術館と割り振りながら実施しており、全体としては 21 校となります。

ウィズ・キッズにつきましては、企画の段階から東先生にご相談をさせていただいております。また、ＰＲのことも大変ありがたいと感じています。当館では開館当初から、子どもと親の美術館やアミューズランドという形で子ども向け展覧会を行ってきましたけれども、目指す姿の中でウィズ・キッズというコンセプトをたて、そこに向けて一歩一歩やっていきたいということで、また新たに始めたところです。学校の先生が求めていることを、私たちももう少し具体的にお聞きして、そこに寄り添いながら、先生方にいっそう役に立つような形で事業を行いたいと考えています。

【北村会長】

移動美術館がオンライアート教室に必ずしも置き換わる訳ではないと思うのですが、オンラインアートの形もこれから進めばいいと思います。

小中高、大学の学校教育と美術館がもっと密に連絡がとれるとお互いにとって有益になると思います。

【吉野委員】

ポケット学芸員につきましては、本校の生徒がこの企画に参加して、音声ガイドを作ることができました。校長として、貴重な機会を頂いたことに、感謝を申し上げたい。参加した生徒も、家族の方々もこの経験は今までにしたことの無いかけがえのない経験だったいうことでした。私たちのテーマとして、美術館に行くことのハードルを下げるということ。美術館に作品を観に行くことは若い子ども達には、緊張感を伴うものがあると思います。美術館の企画に参加できる機会を頂くことで、能動的に展覧会を観に行くということだけではなくて、美術館の活動を支える役割を自分達が担えるという思いを持てたのは大きいと思っております。

カフェについて、美術館のカフェを利用したり、近隣のお店に行ってみたりしますけれども、普

段札幌の町を歩いていると、カフェとか喫茶店が少なくなって来ており、営業しているカフェは土・日曜日は大変混雑していて、行列になっているような状況があります。席一つとるのも大変というお店があるという現実の中で、美術館にあるカフェやレストランは、美術館に行った人でないと利用できないというイメージがあり、入りにくいのかなという気がします。逆に周りのお店は、美術館の利用者だけではない、一般の方も入れるわけですから、その視点を切り替えて、美術館の中であっても誰でもリーズナブルに使えるような運営ができたら、視点が変わって他の人も集まってくるのではないかと思いました。

移動美術館の話は、私が郡部の高校の校長をしていた時に、町から少し離れたところに市立の博物館があって、なかなかお客さんが集まらなくて、高校生も場所は分かっているけども、小学校の社会科見学くらいでしか行ったことがないということがあったものですから、学校祭の時に、博物館の展示物を学校に持ってきてもらって、1日博物館をやりました。高校生も、小さい子ども達も、大人の方も観てもらうことができました。移動美術館もそういうコンセプトだと思いますが、学校の企画にあわせて、学校に美術品を持って行って、そこで観てもらうという方法で、遠いところが難しいとか、運搬に気を使うとかあると思いますが、美術館の取り組みを地域全体に広げていく、連携することができるのではと考えました。

【北村会長】

来年度は1年間フル稼働できて、来年度の展覧会もおもしろいラインナップが並んでいるのですけれども、鳥獣戯画を観る人が何万人来ても近代美術館の収入にはならないという構造があるわけです。予算をみると来年度はフル稼働していながら、予算は少ないという構造をどこかで考えてもらわないと、美術館の収入をいかに増やすかということを真剣に考えないと、美術館がおもしろい企画を立てても成り立たなくなってしまうのではないかと危機感を感じています。

【立川館長】

実行委員会展が近代美術館の収入にならない方式は、全国で北海道だけとなっています。札幌市の芸術の森美術館は、共催で、折半で、赤字の場合は赤字をかぶるし、黒字の場合は収入が入る。北海道だけが、負担金を出すだけで、黒字でも赤字でも近代美術館には影響がないという特殊なや

り方を長年していたのですけれども、その見直しについて、本庁とも協議していますし、遅くともリニューアル後には、全国の他県と同じような実行委員会展で黒字になれば収入が入ると言った仕組みにしたいと思っておりますし、マスコミが共催相手のことが多いですけれども、内々、話している中では、当然そういう方式も考えられると言う意見もございますので、近いうちに実現したいと思っております。

【北村会長】

65 歳以上を有料にすると私も影響を受けてしまうのですが、美術館の収入をどのように増やすのか、例えば、カフェ、グッズなども含めて色々な方策があると思いますので、よろしくお願いします。

【立川館長】

65 歳以上無料は、美術館だけではなくて、道立施設全体の話なので、大きな方針が変わらない限り、近代美術館だけで 65 歳以上有料とするわけにはいかないので、全庁的な方針を変えるようにしてもらいたいと思っています。

カフェは、リニューアルにも関係するのですが、改修になるのか、改築になるのか、改修であればいつから改修して休館になるのか、カフェ事業者を公募するにしても、少なくとも 5 年間は営業する期間を保証しないと手をあげる業者がいないという状況ですので、リニューアルの方針がはっきりすれば、公募も再開できるかもしれません。

【吉崎副会長】

来年度の特別展のラインナップをみると、『琳派×アニメ』展、『京都 高山寺展』、『皇居三の丸尚蔵館展』と日本の近代以前を扱った展覧会が 3 つ並んだという印象があって、展覧会は色々な巡り合わせがあって成り立つのは分かっているのですが、多彩で特色のある展示をうたいながら、ラインナップが同じような傾向だという印象を持ったということをお伝えさせていただきます。

【中村副館長】

『京都 高山寺展』は、コロナのために、2021 年に開催しているはずが、ここまでずれ込んでしまったものです。『皇居三の丸尚蔵館展』は、伊藤若冲が有名なため広報に出していますが、北海

道に関連する洋画や、皇室ゆかりの工芸なども一部出品されます。『琳派×アニメ』展に関しましては、貸館と言うことで、色々な変遷があった結果、主催者であるＳＴＶさんの意向によって、ここに入ったものです。

【吉崎副会長】

見た目はそうですけども、アニメですとか、中身はバラエティに富んでいるということですね。

【三岸好太郎美術館】

⑶ 令和５年度事業の実施状況について（資料２－１）

⑷ 令和６年度事業実施計画（予定）等について（資料２－２）

ウ　事務局から資料２－１、２－２（三岸好太郎美術館）について説明

エ　質疑・意見

【北村会長】

漏水があったということで、近美の方では、施設の点検、整備など、講習会を行ったとのことでしたが、そういうことはされていますか？

【岩上副館長】

私も、近美の研修会に参加しました。

【北村会長】

三岸好太郎美術館はちょうど 40 年ということですが、非常に居心地が良い、気持ちの良い空間であり、維持するのは大変だと思いますが、是非、維持を続けて頂きたいと思います。

イベントが戻ってきて、来年度はコロナ前の水準に戻ったということで、コロナ前と比べて人数はどうですか？

【岩上副館長】

具体的にはパーセントでは言えないのですけれども、１月末現在で昨年度の入館者数を超えていて、更に千人くらい上積みがありますので、コロナ前まではたどり着かないですけれども、近い感じになってきています。特にコンサート事業を行うと、沢山人が入ってくれ、来年度は、本格的に、

ミニリサイタルなどを再開していきますので、入館者増を期待しているところです。

【北村会長】

コンサートの演奏者もそうですし、＃みまのめの作家もそうですけど、プロでバリバリやっていると言うより若い人達だと思うのですが、先ほど若い人達の発表の場がないという話がありましたけど、若い人の登竜門的な場になると、三岸好太郎美術館が一つ大きな特色を持ってくるのではないかと思います。

【吉崎副会長】

三岸好太郎美術館は、私のいる本郷新記念札幌彫刻美術館と同じように個人を顕彰する小さな美術館ということで、その活動を注目しております。コンサートの話もそうですし、現在開催中の『恋する画家の陶酔ざんまい』で学芸員の方がギャラリートークを、テーマを変えて６回実施するなど色々な取り組みをされている。小さな美術館は特にそうですけれども、いかに愛着を持ってもらえるかが大切だと思っており、そのために展覧会の度ごとに来てもらうだけではなくて、来館回数を増やす方法として、私も彫刻美術館で連続講話をやっています。とある美術館の館長から聞いた話ですが、大手広告代理店の第一線で活躍していた人が、時代が変わり、物を売ろうとか、何かをしようとしても、今までのように不特定多数を相手に広くＰＲしていてもダメで、これからはファンを育て大切にしていかなければ生き残っていけないという話をしていたそうなんです。そうなると、小さな美術館としては、愛着を持ってもらうことに力を入れていくことが必要で、良い展覧会を開催することもそうですし、色々なことで足を運んでもらうことも大切だと思っています。

【霜村委員】

私もファンの一人です。来年度も『恋する画家の陶酔ざんまい』に続いて、詩人という切り口ですとか、モティーフに焦点をあてるとか、札幌の風景、色というふうにそれほど多くない収蔵品であるにも関わらず、毎回違う切り口で、今回も風景がどこなのかと言う最新の研究や読み解きが加えられていて、学芸員の調査研究の成果が現れています。ファンの方からの情報ですとか、色々な情報を交えて紹介してくれるので、同じ作品には思えないような魅力が、いつもあふれています。昨年もマール展で、当館もマール展を開催するゆかりがあり見学させていただいたのですが、あの

企画は三岸好太郎美術館でしかできない、作品と美術館の空間、それから、絵本の原画が全て伏線的に繋がって、何重にも世界が展開されていて、作品から違う世界にも飛べるし、絵本の世界から三岸好太郎作品にも到達できるという、すごく幻想的な空間になっていてとても感動しました。いつも魅力的な展示と研究の成果、最新の情報を紹介してくださり、皆様の苦労が感じられるところですので、多くの方に知って欲しい美術館だと思います。

【中井委員】

『おばけのマールとたからもの』展については、私としては、反省点が沢山ありました。

＃みまのめについては、注目していて、若手の登竜門的なことになっていくと、作家の人達も気持ちが上がりますし、鑑賞者としてもどのような人が展示しているのかとわくわくしながら観に行くことにつながると思いました。以前に展示されていた福田亨さんは、ＮＨＫの日曜美術館にも出ていて喜んでおりました。一宮市の三岸節子記念美術館では、女性の若手の作家を注目しているのですけれども、昨年取り上げていた安藤正子さんは、先月、芸術選奨文部科学大臣賞の新人賞を受賞されたりしている。そのようなところに繋がる作家が三岸好太郎美術館でも生まれてくれば良いと期待しております。

【柿崎委員】

時代が変わって新しい方々に対してということで、＃みまのめもその通りだと思います。

来年度、近代美術館で岩橋英遠の道産子追憶之巻が出るのですが、岩橋英遠が２０年構想して、５年かけて描いた２９メートルにおよぶ絵巻です。新しい感覚で若い方が取り組んでいくということも大事なことだと思いますけれども、絵巻物は冬の夜に始まり、１年を通して冬の夜に終わり、岩橋英遠の家から３６０度見回したところが全部収まっているということと、春夏秋冬、朝から夜まで描かれており、どうやったらはめ込んでいけるのかと思います。北海道を代表する岩橋英遠や、片岡球子の新収蔵品も展示されるということで、お二人巨匠が出るので、新しいことも大事なのですけども、近代美術館の中にはすごいお宝があるということで観ていただけたら、いいなと思います。道産子追憶之巻も頻繁に出る訳ではないので、できればレプリカでもあって２階の回廊のところで貼られていると、子ども達が来て、色々発見することがあるのではないかと思っております。

【北村会長】

北菓楼とは、サテライトやスイーツ券を配ったりすることで回遊性ができると思いますが、近代美術館と三岸好太郎美術館の回遊性はいかがですか？

【岩上副館長】

常設展の共通券がありまして、近代美術館を観た後に三岸好太郎美術館を観にくる、三岸好太郎美術館を観た方が近代美術館を観に行くという流れを期待して共通券を設定している部分があります。

【北村会長】

共通券は、成功していますか？

【岩上副館長】

今年は、近代美術館が休んでいる期間があったので、例年と比較はできないのですが、それなりに効果はあると思っております。

【大石委員】

令和 6 年度で、＃みまのめが 10 回目ということで、今まで展示された方の作品を並べたり、全員集まってトークをしたりなどの企画は考えておりますか？

【岩上副館長】

今のところそういう企画の予定はありません。

【大石委員】

アーティストが、自分の作品について話す機会は、特に若い作家は少ないと思いますので、そういう方達が、一緒に活動したり、話したり、集う場ができるだけでも、今後のためには有意義な活動になると思います。レジデンスみたいなものは難しいかもしれませんが、知事公館周辺が美術の発信源になると、あそこに行くと誰かアーティストが作品を作っている、若い作家の作品が見られるというのが周知されてくると､文化の発信地みたいなムーブメントが生まれるかもしれないので、そういうことを視野に入れながら、＃みまのめの活動を継続的に１００回までやってくれると嬉しいなと思います。

(5) 新たな美術館評価制度について（資料３）

オ　事務局から資料３について説明

カ　質疑・意見

【北村会長】

私は、前の時から参加していますけど、説明を受けても分からないと思いますけれども、３７の定性的、定量的な評価項目をそれぞれ小文字のａ，ｂ，ｃ，ｄで評価し、総合的に大文字のＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄで評価する。その目的は、単年度の実績評価ではなくて、次の課題へと繋げていくための評価にすることです。今年度は動いていて、結果が来年度の第１回目の協議会の際に、皆様にお示しできる。昨年度までの評価では、Ｂ，Ｃ，Ｄとか評価が対外的に出てくると、立派な展覧会を行っているのに、なぜこのような低い評価なのかということで、皆さんの中で疑問がありました。次の評価の結果がどうなるのか分かりませんけれども、新しい評価が動いているということです。なぜ、Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄという評価なのかということは、改めて、検討することができると思います

【三橋委員】

PDCA サイクルですが、単年度だと評価されやすいプランになりがちです。「次にどこに向かおうとして、そのために何をするのか」が日本では重視されていなかったところがあって、単年度的な P から始まるのではなくて、一周前の A からつなげていく進み方も必要だと思っています。新しい方向を目指しながら、年度をまたいで進めていく事業の「プロセス改善のための評価」という感覚が伴うと、職員の方々もやる気がでてくると思います。今後の方向性を楽しみにしております。

(6) 近代美術館リニューアルに向けた検討状況について（資料４）

キ　事務局から資料３について説明

ク　質疑・意見

【北村会長】

近代美術館は４５年を超えてあちこち漏水があったり、事故があったりしています。近代美術館をこれからどうするかを『これからの北海道立近代美術館検討会議』の中で、新しい美術館ができ

るとしたらどういうコンセプトのもとで活動するか、先ほど出てきたウィズ・キッズというのもそうですが、非常に難産の末、コンセプトが決まったという経緯があります。当初予定したよりもスケジュールは遅れていると思いますが、ここに増築するか、ここを建て替えるのか、隣の知事公館に行くのかを選択する中で、色々比較してみた場合のメリット・デメリットを業者に頼んで調査してもらって、その結果が出てくるところです。出てきた後に、私達のところでどうするか考えて少しずつ動いて行く。その他に、広く道民の皆様から意見を聞くために、色々なイベントを行ったり、アンケートをとったり、ＷＥＢ上で意見を聞いたりしながら、エリア全体の魅力を高めていく。まだ、決まっていないことも沢山あるので、ここから移転した時にここの敷地はどうするのか、建物自体の価値はどう考えるのかなど色々なことを考えないといけないと思います。前回の１２月には、お願いする比較項目で、どういうところに注意して欲しいというところをみんなで意見を出し合ったところです。私たちがこうしろああしろということはできないですけれども、美術館協議会の中で、将来どういう美術館がふさわしいのか、これまでも聞いてきたと思うのですけれども、何かありましたら発言をお願いします。

【中井委員】

２０年以上前の記憶のため違っているかもしれませんが、ニューヨークの近代美術館が、それくらいの頃にリニューアルを行っていて、休館状態になっている時に、少し離れたクイーンズというエリアにしばらく開館していて、新しく建て直してから、現在の位置で開館した記憶があります。休館している間、何も観る物が無いというのは困るので、クイーンズというところでやっていたと思うのですが、そこに観に行くことで、新しく美術館がオープンするまでの期待感も感じられました。今の位置は、近代美術館がここにあるという思いがあるので、他のエリアには移らない方がいいという個人的な気持ちがあったので、そのようなやり方はどうなのかなと思いました。

【北村会長】

ここに残るのか、増築するのか、改築するのか、移転するのか、全然決まっていないし、ここが良いという方もいますし、知事公館の方に行った方が良いなど色々な意見があり、まだ、結論が出ていない状態です。選択肢が、３つあるというところまでです。

【北村会長】

以上をもちまして、本日の議事をすべて終了いたします。

熱心なご討議、ご意見ありがとうございます。

【議事終了】

事務局から次回協議会の日程等について事務連絡を行い、すべての議事を終了。